

1. 活動の概要

6月25日(火)、松江市立意東小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。奈良時代の松江市東出雲町と古代遺跡についての授業と、実物大の大仏パネルの組み立て体験学習をおこないました。

まず、出雲国風土記や遺跡などから古代の東出雲町がどのようなところだったのか説明を聞きました。児童たちは「意東」の地名の由来や、東出雲町にもたくさんの遺跡があることなどに興味を持ったようです。また、土器などの出土品の見学では、熱心に質問をしたり、実物に触れながら時代や用途による色や形、質感の違いを感じていました。

2時間目には、奈良の大仏の作り方や時代背景について説明を聞いた後、体育館のフロアいっぱいに、みんなで協力しながら大仏パネル並べをしました。パネルを並べ終えたところで、大仏に魂を入れる開眼の作業をみんなでを行い、大仏を完成させました。この体験活動を通して、大仏の大きさだけでなく、当時これだけの大仏をつくるのがいかに大変なことだったのかを学習することができました。最後のまとめの時間では、多くの児童が手を挙げて授業の感想を述べていました。子どもたちは、興味関心をもって積極的に学習に取り組むことができました。

2. 活動の様子



本物の土器に触って学習しました



奈良の大仏づくりのお話にみんな興味深々



大仏パネル並べ作業の様子



みんなで大仏の開眼をして完成！

3. 子ども塾を終えて

1) 児童の皆さんから…

- ・意東の名前の由来が分かった。島根県の地名を詳しく知りたいと思いました。
- ・大仏パネルを並べてみてあらためてその大きさが分かりました。大仏のことを調べてみたいです。
- ・みんなと協力して大仏を完成させることができ楽しかったです。
- ・本物の土器を見たり触れたりできてよかったです。
- ・島根の遺跡や昔の人々の暮らしなどについてもっと知りたいと思いました。

2) 担任の先生から…

- ・大仏パネルは楽しく活動できました。また、大きさを体験することができました。
- ・東出雲町周辺の遺跡については教員にも大変勉強になりました。